



生徒指導部から（2・3年生へ）
 == 未来の花を咲かせるために ==
 2026年6月19日

6月23日は「沖縄慰霊の日」、1945年、3ヶ月間にわたる沖縄地上戦の組織的な戦闘が終結した日です。「鉄の暴風」と呼ばれた米軍が浴びせ続けた激しい砲撃と空爆、追い詰められた末の精神の破綻が日本軍による民間人の殺りくや集団自決の強要などの悲惨な状況を生み、日米併せて20万人、沖縄県民の4人に1人が亡くなったといわれます。最後の戦闘の地となった摩文仁(まぶに)の丘には、戦没者名簿を刻んだ「平和の礎」、各県ごとの「慰霊碑」が建ち並び、恒久平和への願いを今に伝えています。平和の広場中央には、沖縄戦最初の上陸地である座間味村阿嘉島で採取した火と被爆地広島島の「平和の灯」、長崎の「誓いの火」を合火した「平和の火」が灯されています。日本人として、生涯一度は訪れておくべき場所だと思います。

今、平和な日本に生活しているあなたたちは、自分の未来を自由に描き、努力することができます。それは本当に幸せなことだと感じ、周りにいる仲間たちと励まし合いながら、自分の可能性を磨くために有意義な毎日を送ってほしいと願っています。

内閣府「我が国と諸外国の若者の意識に関する調査（令和5年度）」から

5カ国の13歳～29歳の男女に行われた調査

「自分自身に満足している」と回答した割合(%)

米	独	仏	典	日
73.2	73.9	75.6	72.3	57.4

「今の自分が好きだ」と回答した割合(%)

米	独	仏	典	日
71.5	75.5	72.4	71.8	53.4

この質問は、「自己肯定感の高さ」を表していると言えます。

自己肯定感とは長所や短所をひっくるめて、ありのままの自分に満足できる気持ちのことです。諸外国に比べて、日本の若者がいかに自己肯定感が低いかが分かります。自己肯定感が低い人ほど、必要以上に自分の短所ばかりを気にしてしまい、せつかくの長所ですら、まだ不十分だと納得できずに、次のような悪循環を生みます。

- ①物事を否定的に考える習慣が身につく → ②失敗を恐れて挑戦しない
- ③挑戦しないので達成感(成功体験)を得る機会が減る
- ④少ない挑戦の機会で、失敗すればどうせ報われないと諦める
- ⑤ますます否定的な考えに陥る



この悪循環に陥らないためには、それぞれの逆の行動をとればいはずです。

物事を肯定的に考え、失敗を恐れず挑戦し、その成功からは達成感を、失敗からはくじけないうる心を学ばばいいということです。世の中に失敗したことがない人なんていませんから、失敗に対する耐性がその後の分かれ道ということでしょうか。

「自分自身に満足している」割合が高い欧米諸国と日本の子育てにおける大きな違いも指摘されています。

最もわかりやすい例は、幼児期の子どもの服装に対する考え方だそうです。日本は、決められた制服を着ることが多く、私服でも保護者が準備したものを着ていくことが当たり前になっています。反対に、欧米諸国は幼稚園に通う子どもでも自分で服を選んで着ていきます。その日に何があるのかを考えて、どんな服が相応しいかを選んで着るそうです。

どんな服にするか迷っている子どもに対しては、服を出してあげるのではなく、「It's up to you.(あなた次第よ。)」
 「It's your choice.(自分で決めることだよ。)」という言葉がかけられます。

欧米諸国では幼児期から、物事を自分で決める、決めたことでの成功や失敗を数多く経験していくことが一般的なようです。子どもの頃から、自分で決めて、成功と失敗を重ねることで、「自分のことを自分で決める習慣」や「成功に基づく自己肯定感」と「失敗にもめげずに取り組む耐性」が身につくのだそうです。

困難にぶつかってくじけそうになったときに「自分ならまだやれる」と思うのか、「自分なんてダメだ」と思うのか、この違いで人生の歩みは変わってきます。自己肯定感はそのエネルギーとなるものです。

「うまくいくかわからないことにも意欲的に取り組む」と回答した割合(%)

米	独	仏	典	日
76.2	76.2	80.0	71.2	56.4

「40歳くらいになったとき、多くの人の役に立っている」と回答した割合(%)

米	独	仏	典	日
70.2	77.4	66.1	69.3	39.2

この質問は「自分の可能性を信じられるか」を表していると言えます。

新しい物事に挑戦する意欲、「できるはず、できるかもしれない」という気持ちがベースになっています。自分の限界はいつの間にか自分で決めてしまうもの。未知の自分の可能性を信じて、前向きに日々の生活に向き合えたら、未来には充実した幸せな日々を送れることですね。来週は期末考査です。～Yes, I can. で!